



町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～

【218年の時を経て吉岡の地に上陸…】

桜前線が北上し津軽海峡を越えて、満開の桜が咲き誇る季節の中、四月二十七日（金）、伊能忠敬没後二百年を記念し、吉岡漁港内で「伊能忠敬北海道測量開始記念公園竣工式並びに伊能忠敬翁銅像除幕式」が多くの方々のご臨席をいただき開催されました。

当日は、伊能家七代目で洋画家の伊能洋様、東京農業大学の創設者である榎本武揚のひ孫にあたる東京農業大学客員教授の榎本隆充様並びに銅像を製作した彫刻家の酒井道久様に、ご来賓としてご出席をいただき、また、友好市町である長崎県松浦市の友田市長並びに長野県木曾町の原町長にも遠方より出席をしていただきました。

朝方は少し風が強くなり配されましたが、前日の榎本先生の「私は晴れ男ですから」の言葉のように式典が進むに従い青空が

広がり、終わりごろには春らしい暖かな日差しが会場を照らしてくれました。式典では、国の重要無形民俗文化財に指定された「松前神楽」が銅像の前で奏上され、お祝いムードの中、会場が華やいだ雰囲気になりました。

式典終了後は、会場を吉岡総合センター「なごめくる」に移し、函館市在住の講師である荒到夢形氏による「伊能忠敬吉岡上陸」と題した講談が行われ、夢形さんの軽妙な話術に、会場内には笑みがこぼれておりました。また、参加者の皆さんへ、千軒そばの会のご協力により「千軒そば」の提供があり、「美味しいね」という言葉を多くいただきました。

伊能忠敬翁は寛政十二年（千八百年）に蝦夷地測量のため吉岡の地に上陸し、二百十八年の時を経て、忠敬（ちゆうけい）先生の測量をしている姿

が蘇りました。

全国の方々から多くの寄付をいただき、建設基金の総額も千百万円を超える結果となりました。こうした方々の熱い思いにより、銅像を建立することができ、今までになく行政効果を生んでおり、こうした方々の志を大切にしていきたいと感じております。

私たちは、この歴史的史実を誇りとして後世に伝えることが大切であり、是非、町民の方々にも一度足を運んでいただき、福島を訪問される方々へアピールしてくださるようお願いいたします。

五月十三日（日）、母の日に恒例となりました「第二十七回北海道女だけの相撲大会」が福島町総合体育館を会場に開催されました。例年ですと福島大神宮境内の鏡山相撲場で行われますが、早くから雨の予報でしたので、会場を

総合体育館へ移しての開催となりました。

当日は雨にもかかわらず多くの方々に足を運んでいただき、出場者も道内はもとより遠方からは、長崎県や岡山県からの参加がありました。回を重ねるごとに、全国的な広がりをかせております。大会の結果は、東京都（知内町出身）の「まこデラックス山」が連覇を果たしております。

女性が大相撲の土俵へ上ることがテレビ等で話題となっており、昨年までと比べてマスコミも多かつた気がいたします。我々は大相撲と違い、先代の宮司さんのまちづくりへの思いを大切に守っていくことが、新たな伝統に繋がると思っています。私は、伝統というものは時代と共に変化、進化していくからこそ、脈々と未来の人々へつなげていくものだと信じております。